

—IT会社で採用・教育担当

数学が苦手だった。高校で文系・理系のどちらに進むかを選択する際、「人並みに問題が解けるようになるには授業を人よりたくさんとればよい」と、安易な理由で理系を選んだ。もちろん、授業をたくさん受けても数学的センスが向上するわけもなかったのだが、ある大学の入学試験は科学小論文で、数学も解答もない問題を出すような分野は面白そうと、地学の世界に飛び込んだ。

地学は理系の要素の全てが複合的に組み合わせわり、面白さとロマ

凛としていきる

理系女性の挑戦

人生の選択の先に楽しさを

ンがある。研究テーマは、海生生物の化石から古い時代の地球環境変動を明らかにすること。ハンマー片手に化石を採集し、試料を煮たり焼いたりして機器にかけ、電子顕微鏡や質量分析計の傍らで長い時間を過ごした。



もう少し知りたい、あれも試したいと研究を続けるうちに、あっという間に博士課程になった。地学はすぐに人の役に立つ要素は乏しく、専攻を生かした就職は難しかった。入社した会社はソフトウェア開発、ITソリューションの提供が主業務。入社時は文理不問のシステムエンジニア(SE)として、組み込み機器制御のソフトウェアをチームで

人材開発部採用チームと(前列右端が今野さん)

開発。短納期で大規模プログラムを組み上げるために体力的に大変な時期もあったが、作ったものが社会で利用されているという実感を持つことができたのは大きな財産となっている。

現在は人材開発部で採用・教育を担当している。デジタルの世界から人事へ。最も大きな変化は、驚くほどたくさんの人に関わるようになった。

してスケジュールを合わせていく。学生への会社説明や、面接で途切れることなく新しい出会いがある。化石やプログラミング言語と向き合っていた日々からは隔世の感だが、人と向き合うことの複雑な難しさと楽しさが何よりやりがいにつながっている。

面接や説明会を行うにはまず社内調整から始まる。役員から新人まで時に無理をお願い

で当たってしまうこともあるが、常に自分の選択の先にやりがいと楽しさを見いだしていきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWF)

(火曜日に掲載)

富士通ビー・エス・シー

今野直美



プロフィール 95年山形大理卒。01年東北大院理学研究科博士修了後、富士通ビー・エス・シー入社。